



安全データシート (SDS)

1. 化学物質及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2019/06/05
SDS整理番号 01504350

製品等のコード : 0150-4350、0150-4330、0150-4340、0010-0170、0010-0180、0010-0181

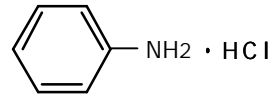
製品等の名称 : アニリン塩酸塩

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
有機合成原料、合成中間体、医薬・医薬中間体、はんだフラックス、染料 など



2. 危険有害性の要約



GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分外
自然発火性固体 : 区分外
自己発熱性化学品 : 区分外
水反応可燃性化学品 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4
皮膚腐食性・刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2A
生殖細胞変異原性 : 区分2
発がん性 : 区分2
生殖毒性 : 区分2
特定標的臓器・全身毒性
(単回ばく露) : 区分1(血液系、神経系)
特定標的臓器・全身毒性
(反復ばく露) : 区分1(血液系、神経系)

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)
皮膚刺激
強い眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれの疑い
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
血液系、神経系の障害のおそれ
長期又は反復ばく露による血液系、神経系の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【救急処置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

遮光した気密容器に入れ、湿気を避け、冷暗所に施錠して保管すること。
吸湿性があるので、使用後は速やかに密封して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注)物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品、混合物の区別	: 単一製品
化学名、製品名	: アニリン塩酸塩 (別名) 塩酸アニリン、塩化アニリニウム、 アニリニウムクロリド、1-アミノベンゼン塩酸塩、 アニリニウム=クロリド (英名) Aniline hydrochloride, Anilinium chloride (EC名称)、 1-Aminobenzene hydrochloride、 Benzenamine, hydrochloride (1:1) (TSCA名称)
成分及び含有量	: アニリン塩酸塩、98.5%以上(乾燥後)
化学式及び構造式	: C ₆ H ₅ NH ₂ ·HCl、C ₆ H ₇ N·HCl、C ₆ H ₇ N·ClH、[C ₆ H ₈ N]Cl、C ₆ H ₈ CIN 構造式は上図参照(1ページ目参照)
分子量	: 129.59
官報公示整理番号	化審法: (3)-105「アニリン」、 (1)-215「塩酸(塩化水素)」 本品はアニリンの付加塩またはオニウム塩であり、 新規化学物質として取り扱わない物質である(既存化学物質扱い)。
CAS No.	: 142-04-1
EC No.	: 205-519-8
危険有害成分	: アニリン塩酸塩 ・毒物劇物取締法 劇物「アニリン塩類」

4. 応急措置

吸入した場合	: 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を多量の水と石鹼で洗う。 皮膚刺激などが生じた場合は、医師の診察、手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	: 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で上げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	: 直ちに口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	: 吸入した場合；咳、咽頭痛、紫色(チアノ - ゼ)の唇や爪、 紫色(チアノ - ゼ)の皮膚、錯乱、けいれん、めまい、 頭痛、吐き気、意識喪失

皮膚に付着した場合：吸収される可能性あり。発赤。
 眼に入った場合：発赤、痛み。
 経口摂取の場合：「吸入」の項を参照。

5. 火災時の措置

- 消火剤：本製品は可燃性である。
 粉末、二酸化炭素、泡（耐アルコール泡）、水噴霧
 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
 使ってはならない消火剤：棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。）
 特有の危険有害性：火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
 特有の消火方法：安全に対処できるならば着火源を除去する。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 風上より消火し、環境へ流出しないよう漏洩防止処置を施す。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
 消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め適切な防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 ：漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
 危険な現場を分離して無関係者及び保護具未着用者の出入りを禁止する。
 作業者は保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
 風上に留まる。
 低地から離れる。
 密閉された場所に立入る前に換気する。
 環境に対する注意事項：河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
 環境中に放出してはならない。
 回収、中和：こぼれた物質を密閉式容器に掃き入れる。残留分を注意深く集め、安全な場所に移す。後で、廃棄処理する。
 封じ込め及び浄化の方法・機材
 二次災害の防止策：危険でなければ漏れを止める。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 近くに裸火源、発火源があれば、速やかに取除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
 技術的対策：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 粉じんの堆積を防止する。
 局所排気・全体換気：換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 安全取扱い注意事項：すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
 接触、吸入又は飲み込まない。
 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行う。
 皮膚、粘膜等に触れると、炎症を起こすことがある。
 目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付ける。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
 取扱い後はよく手を洗う。
 接触回避：炎、火花、湿気、水または高温体との接触を避ける。
 保管
 技術的対策：保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
 保管条件：高温多湿を避け、乾燥した冷暗所（1～15℃）に保管する。
 遮光した気密容器を使用する。
 光のばく露を避ける。
 吸湿性があるので、袋包装の場合、使用後は十分に空気を抜き、密封して保管する。
 開封後は速やかに使用する。
 品質管理上、夏季気温が上昇して吸湿がすすむと品質劣化し、種々の問題が発生する場合がありますので保管には十分な配慮が必要である。
 可燃性であるので、火気に注意する。
 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
 一定の場所を定めて、施錠して保管する。
 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。
 混触危険物質：強酸化剤、強アルカリ性物質
 容器包装材料：ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

<参考> 容器包装材料の室温における耐薬品性(あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要)

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

スチレンゴム クロロブレンゴム(ネオプレン)x ニトリルゴム ブチルゴム
 天然ゴム シリコンゴム フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) テフロン
 軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅
 軟質塩ビ 硬質塩ビ ポリスチレン ABS ポリエチレン ポリプロピレン
 ナイロン アセタール樹脂 アクリル樹脂 ポリカーボネート ガラス

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標) : 設定されていない。
- 設備対策 : 日本産衛学会(2017年版) 設定されていない。
 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
- 保護具
 - 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。
 - 手の保護具 : 保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用する。
 - 眼の保護具 : 眼の保護具(ゴーグル型保護眼鏡)を着用する。
 - 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。
- 衛生対策 : 必要に応じて顔面用の保護具、長靴を着用する。
 取扱い後はよく手を洗う。
 取扱い中は飲食、喫煙はしない。
 汚染された作業衣は作業場から出さない。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態、形状、色など : 白色～微黄褐色の結晶又は結晶性粉末
- 臭い : データなし
- pH : 酸性～中性(5wt%水溶液)
- 融点 : 198
- 沸点 : 分解(245 : アニリンと塩化水素に分解する。)
- 引火点 : 193
- 爆発範囲 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 蒸気密度(空気 = 1) : 4.46
- 密度 : 1.22 g/cm3
- 溶解度 : 水に可溶、エタノールに可溶、エーテルに可溶。
- オクタノール/水分配係数 : log Pow = -2.61
- 自然発火温度 : データなし
- 分解温度 : 245 (アニリンと塩化水素に分解する。)
- 粘度 : データなし

GHS分類

- 可燃性固体 : 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告(UNRTDG)のクラス4.1(可燃性固体)にも該当しないことから、区分外とした。
- 自然発火性固体 : 常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分外とした。
- 自己発熱性化学品 : 空気との接触により自己発熱性がなく、さらに、国連危険物輸送勧告(UNRTDG)のクラス4.2(可燃性固体)にも該当しないことから、区分外とした。
- 水反応可燃性化学品 : 本品は水に可溶であり、水に対して安定である(水との混触で可燃性ガスの発生がない)と考えられるので、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 日光、空気中で酸化されて着色する。
 加熱したり、酸及び酸性ガスに触れると分解し、アニリンと塩化水素を含む有毒ガスを発生する。
 吸湿性があるので、使用後は容器を密封すること。
 吸湿すると、ブロッキングがおきる(固まりの発生)。
 可燃性であるので、火気に注意する。
- 危険有害反応可能性 : 多くの金属(特に銅及び軽金属類)に対し腐食性がある。
 強酸化剤又は酸との混触で激しく反応することがある。
 強アルカリと混触すると反応することがある。
- 避けるべき条件 : 日光、高熱、湿気、火気

混触危険物質 : 強酸化剤(硝酸塩、過塩素酸塩等)、酸、強アルカリ
 危険有害な分解生成物 : 燃焼で熱分解すると、ハロゲン化物、窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素などのガスが発生する。

11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット LD50=840~1,070 mg/kg (CEPA(1994))から区分4とした。
 飲み込むと有害(経口)(区分4)
 経皮 データがないため分類できない。
 吸入(蒸気) データがないため分類できない。
 吸入(粉じん) データがないため分類できない。

皮膚腐食性・刺激性 : ヒトに対して刺激性があるとする記述(ICSC(J)(2001)、HSFS(2003))
 および、ウサギに対するStandard Draize Testの結果(Moderate, RTECS(2004))から、区分2とした。
 皮膚刺激(区分2)

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ヒトの眼に対して刺激性を示すとする記述、およびウサギを用いた塩酸アニリンのStandard Draize Testの結果(Moderate, RTECS(2004))から区分2Aとした。
 強い眼刺激(区分2A)

呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 呼吸器感作性: データがないため分類できない。
 皮膚感作性: 皮膚感作性を示唆する記述(反復または長期の接触により、皮膚が感作されることがある、ICSC(J)(2001))があるが、GHSの分類基準を満たすデータがなく、データ不足であるため分類できない。

生殖細胞変異原性 : ラットおよびマウス骨髄細胞を用いたin vivo染色体異常試験ではいずれも陰性(ICARC 27(1982), EU-RAR(2004))であるが、ラットおよびマウス骨髄細胞を用いたin vivo小核試験では陽性の結果が認められる(EU-RAR(2004))。以上の結果から技術上の指針のフローに基づいて分類すると区分2と分類できる。
 遺伝性疾患のおそれの疑い(区分2)

発がん性 : IARCでは、アニリンおよび塩酸アニリンとしてGHS区分外に相当するGroup 3に分類されている(ICARC 27(1982); IARC Suppl. 7(1987))が、最近のEUの評価ではアニリンとしてGHS区分2に相当するcategory 3に分類されている(EU-RAR(2004))ことから、区分2とした。
 発がんのおそれの疑い(区分2)

生殖毒性 : ヒトの生殖影響に関する情報はない。
 実験動物では本物質を妊娠ラットに対して妊娠7~20日に強制経口投与した試験で、母動物には10 mg/kg/day以上で体重増加抑制及び脾臓相対重量の増加、100 mg/kg/dayで血中メトヘモグロビン濃度の上昇、赤血球数の減少、網状赤血球の増加がみられたが、胎児には100 mg/kg/dayで肝臓相対重量の軽度増加と血液パラメータの僅かな変化がみられたのみで、胎児毒性や奇形は認められなかった(EU-RAR(2004))。
 また、母ラットに妊娠7日から分娩0日まで同様に投与し、自然分娩させ母動物は生後30日に、出生児は生後60日まで観察後にそれぞれ剖検した結果、母動物には100 mg/kg/dayで脾臓相対重量の増加、血中メトヘモグロビン濃度の上昇、MCVの増加がみられたが、出生児には100 mg/kg/dayまで明確な毒性影響はみられなかった(EU-RAR(2004))。
 一方、厚生労働省ではこのデータに対し、100 mg/kg/dayでの胎児の肝臓相対重量の増加と平均赤血球容積(MCV)の増加が、また100 mg/kg/day投与群の出生児では生後0日にMCVの増加、生後2日に雌の体重減少がみられており、これらは発生影響とされている(厚生労働省有害性評価書 (Access on August 2016))。
 また、ラットに本物質を195 mg/kg/dayで皮下投与した試験で、母動物にメトヘモグロビン血症(25~42%メトヘモグロビン)、胎児に口蓋裂、心臓及び肋骨の奇形がみられ、メチレンブルーの投与により心臓異常と口蓋裂の頻度が減少することから、胎児への影響はメトヘモグロビン形成による低酸素症によると考察されている(厚生労働省アニリン有害性評価書 (Access on August 2016))。
 以上、厚労省のアニリン有害性評価における実験動物での発生影響に基づき、本項は区分2が妥当と判断した。

特定標的臓器・全身毒性 : 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い(区分2)
 本物質の単回ばく露のデータはない。
 アニリンの急性中毒はメトヘモグロビン形成に因るものであり、チアノーゼ、意識障害、呼吸困難、痙攣などを引き起こし死に至る可能性があると記載されている(ACGIH(7th, 2001)、EU-RAR(2004)、NITE初期リスク評価書(2007))。
 実際にヒトでアニリンの誤飲や自殺企図による摂取、あるいは職業ば

- く露により、めまい、昏睡、錯乱、蒼白、チアノーゼ、呼吸困難などの症状が報告されており、その症状は総ヘモグロビン中に占めるメトヘモグロビンの量に依存すると記述されている (EU-RAR (2004)、NITE初期リスク評価書 (2007))。
 以上より本物質もアニリンと同じ毒性影響を示す可能性があると考えられるため、区分1 (血液系、神経系) とした。
- 特定標的臓器・全身毒性 : 血液系、神経系の障害 (区分1)
 本物質は、アニリンと同様の影響を及ぼすと考えられる。ヒトにおいて、アニリン製造工場従業員の多くにチアノーゼのほか、頭痛、めまい、嚥下困難、悪心、嘔吐、胸部及び腹部の痛み又は痺れ、脱力、動悸、不整呼吸、瞳孔収縮 (光に対する反応性あり)、体温異常、呼気及び汗のアニリン臭、暗色尿がみられ、重症時には肺浮腫、尿及び便の失禁がみられている (NITE初期リスク評価書 (2007))。
 実験動物では、本物質の経口経路及びアニリンを用いた吸入経路の試験が複数実施されており、いずれの経路においても区分1の範囲で血液系への影響 (メトヘモグロビン血症、溶血) とそれに関連する二次的影響が認められている。
 以上のように主に血液系と神経系に影響が認められた (NITE初期リスク評価書 (2007)、DFGOT vol.26 (2010))。
 従って、区分1 (血液系、神経系) とした。
 長期又は反復暴露による血液系、神経系の障害 (区分1)
- 吸引性呼吸器有害性 : データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性 : データがないため分類できない。
 但し、水生中では、下記のアニリンと同様の挙動が予想されるので、環境へ大量に放出されると、急性有害性が疑われる。
- 水生環境慢性有害性 : 環境へ放出されると水生生物への急性毒性が疑われる。
 本製品はアニリンの水溶性塩であるため、水への溶解性はよく、アニリンと同様に生物蓄積性は低く、急速生分解性があると推測される。
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

参考【アニリン [CAS No.62-53-3] のデータ】

- 水生環境急性有害性 : 甲殻類 (オオミジンコ) の48時間LC50 = 80 µg/Lから、区分1とした。
 水生生物に非常に強い毒性 (区分1)
- 水生環境慢性有害性 : 急速分解性があり (BODによる分解度:85%)、かつ生物蓄積性が低いと推定される (log Pow = 0.9) ことから、区分外とした。
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
 都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 (参考) (1) 燃焼法
 可燃性溶剤と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉 (おが屑) 等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラパーを具備した焼却炉の火室で、できるだけ高温 (ダイオキシン発生抑制のため850 以上) で焼却する。
 (2) 活性汚泥法
 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急措置指針番号 : 153

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 1548
 Proper Shipping Name : ANILINE HYDROCHLORIDE
 Class : 6.1 (毒物)
 Sub risk : -
 Packing Group : III
 Marine Pollutant : No (非該当)
 Limited Quantity : 5kg

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 1548
 Proper Shipping Name : Aniline Hydrochloride
 Class : 6.1
 Sub risk : -
 Packing Group : III

国内規制

陸上規制情報 (毒物劇物取締法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 1548
 品名 : アニリン塩酸塩
 クラス : 6.1
 副次危険 : -
 容器等級 : III
 海洋汚染物質 : 非該当
 少量危険物許容量 : 5kg

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 1548
 品名 : アニリン塩酸塩
 クラス : 6.1
 副次危険 : -
 等級 : III
 少量輸送許容物件 : 10kg

特別の安全対策

: 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起さないように運搬する。
 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にする。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 重量物を上積みしない。
 車輦等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当
 化審法 : 本品はアニリンの付加塩のため、アニリンと同様に優先評価化学物質及び旧第2種監視化学物質に該当する。
 ・優先評価化学物質 No.54 (官報公示日:2011/04/01)
 評価対象:人健康影響/生態影響
 ・旧第2種監視化学物質 No.1068 (官報公示日:2010/04/01)
 化学物質排出把握管理促進法 (P R T R法) : 非該当
 毒物及び劇物取締法 : 劇物「アニリン塩類」(法第2条別表第2)、包装等級
 消防法 : 非該当
 船舶安全法 : 毒物類・毒物(危規則第2,3条危険物告示別表第1)
 航空法 : 毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)
 海洋汚染防止法 : 非該当
 水質汚濁防止法 : 生活環境項目(施行令第三条第一項)
 「水素イオン濃度」

〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの
 5.8以上8.6以下
 ・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下
 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
 〔排水基準〕 160mg/L 以下(日間平均 120mg/L 以下)
 「窒素の含有量」
 〔排水基準〕 120mg/L 以下(日間平均 60mg/L 以下)
 (注)排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。

輸出貿易管理令 : 別表第1の16項(キャッチオール規制) 第29類 有機化学品
 HSコード(輸出統計品目番号、2019年4月1日版): 2921.41-020
 「芳香族モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩
 - アニリン誘導体及びその塩 - 2アニリンの塩」

16. その他の情報

(注)本品を本来の目的以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項:

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献:

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。